

そらこめ通信 No.43 2014.02発行

日頃より弊社の米をお買い上げいただき誠にありがとうございます。心よりお礼を申し上げます。
 昨年未までは降雪量も比較的少なめで、今年は割と穏やかな冬を過ごせるかなと思っていましたが、やはり沼田町は豪雪地帯。2002年に「輝け雪のまち宣言」を採択して全国から注目を浴び、その後、町内に雪山センターを完成させて冬の間に堆積保存した雪を夏の冷房に利用する「利雪」や、雪のイベントを売りにした「親雪」など、雪にこだわりを持って町づくりを行ってきた自治体であります。堆積保存した雪を資源として町民に販売までしている徹底ぶり。雪の神様が放っておくわけがありません。正月三日を過ぎたあたりから、降雪は本来の勢いを取り戻しています。そういう訳で、今月号は「雪かき」一色になってしまいました。多少、食傷気味かもしれませんがお付き合い願います。

さて、豪雪地帯に住む者としては、雪が降ると道路の除雪状況が殊のほか気になります。道路管理者（道路などを管理している自治体の担当者）や、請負として維持除雪作業の執行に当たられている方々にあつては尚更のこと。道路を維持するために昼夜通して奮闘されており本当に頭が下がる思いです。

先日の北海道新聞の朝刊に限界集落の話が載っていました。限界集落とは住民の半数以上が65歳以上の集落を指す言葉。市街地以外の一定の土地に数戸以上が暮らす地域を「集落」と定義したとき、道内には3747ヶ所の集落があるとされ、そのうちの603ヶ所が限界集落だということです。さらに、全集落のうち55%に当たる2066ヶ所が人口100人未満なのだとか…。冷静に考えると恐ろしくなる数字です。北海道の田舎は、いや日本の田舎はいつだってどうなってしまうのだろう…。財政的に厳しい自治体が増えつつある中で、為政者の方々にはこれらの数字から目を背けることなく着実な施策を望むところです。



社屋に祀った神棚に参拝(昨年12月30日)



育苗ハウスの除雪(1月8日)



灯油タンクの上の除雪(1月8日)



くん炭小屋の屋根雪下ろしとトラクターを使つての雪の後始末(1月8日)



雪に囲まれた本社社屋(1月12日)



育苗ハウスの除雪(1月13日)



納屋の屋根に積もつた雪(1月13日)



納屋の屋根雪下ろし作業(1月13日)



倉庫の屋根雪下ろし～屋根の尾根に沿つて切込みを入れる作業(1月18日)



落雪によるシャッターの破損(1月19日)

落雪の後始末(1月19日)



育苗ハウスの除雪(1月24日)

トラクターの調整をする拓哉君(1月24日)



トラクターによるハウスの除雪とその後の人力除雪(1月24日)

高さがある倉庫の屋根雪を下ろすに当たっては、まず三角屋根の尾根に沿つて雪を切り、その後一晩かけて倉庫の内部を暖めることで翌朝の自然落下を誘います。結構、危険な作業です。



翌朝、屋根雪が落ちた倉庫(1月19日)



約1時間で復旧しました(1月19日)



限界集落の記事(1月13日朝刊)

1月13日の北海道新聞の朝刊に掲載された「限界集落」の記事。2年前の調査から128ヶ所も増えていて、そのうち我々の会社がある空知地方が41ヶ所増の計126ヶ所と地域別では道内で最多だそうです。まさに過疎・高齢化の先進地域といえます。弊社のように後継者がいる農家はいい方で、あと10年も経てば自宅の除雪もままならないというお宅が急増するかも知れません。居住区域の集約化などは喫緊の課題。いつやるの？今ですよ。

これからも安全で美味しいお米の生産に努めますので、引き続きご愛顧のほどよろしくお願ひいたします。

インターネットで美味しいお米♪

(株)空知こめ工房 ホームページ
<http://www.sorachi-kome.jp/>
 ブログ「生産日誌」更新中です